

内務省、通信院連絡委員會

内務省側委員

警保局	警務課長	内務書記官	高橋庸彌
同	警務課	内務事務官	荻野隆司
同	同	内務理事官	○種村一男
同	同	内務技師	○松本晴二(幹事)
同	經濟保安課	内務事務官	後藤博
防空總本部	指導課	防空總本部事務官	○宮地直邦(幹事)
同	警備課	同	○久下勝次

通信院側委員

工務局	線路課長	通信院技師	吉田正
同	無線課長	同	網島毅
榮務局	電務課長	通信院書記官	教勉
總務局	主計課長	同	矢部嘉彌
工務局	線路課	通信院技師	和氣幸太郎(幹事)
同	同	通信院事務官	長田裕二(幹事)
防衛通信施設局	庶務課長	通信院書記官	石橋榮

大日本帝國政府

警急必要

警察通信

無線通信施設ヲ警察通信ニ利用ニ關スル内務省意見書

一 非常災害時無線通信ノ利用不能トナリタル場合警察通信ハ非常用

無線施設ニ依リ、<sup>才取位</sup>特別優先的ニ之ヲ取扱ハレ度キコト

之ガ爲内務省並ニ各廳府縣廳ト非常用無線局トノ間ニ特別ノ電話

回線ヲ設ケラレ度キコト

二 廳府縣廳所在地ニシテ非常用無線局ヲ未ダ設置シ居ラザル所又未

ダ設置計畫ナキ所ハ早急ニ之ヲ整備セラレ度キコト

三 特ニ必要ナル場合ニ現在無線通信社ガ使用シ居ル回線無線通信

放送ヲ警察通信ト使用シ居ル内務省內務局ヲ設クルト共ニ地

方ニ於テハ之ガ受信装置アル同盟通信社支局ト所在ノ廳府縣廳ト

ノ間ニ特別ノ電話回線ヲ設ケラレ度キコト

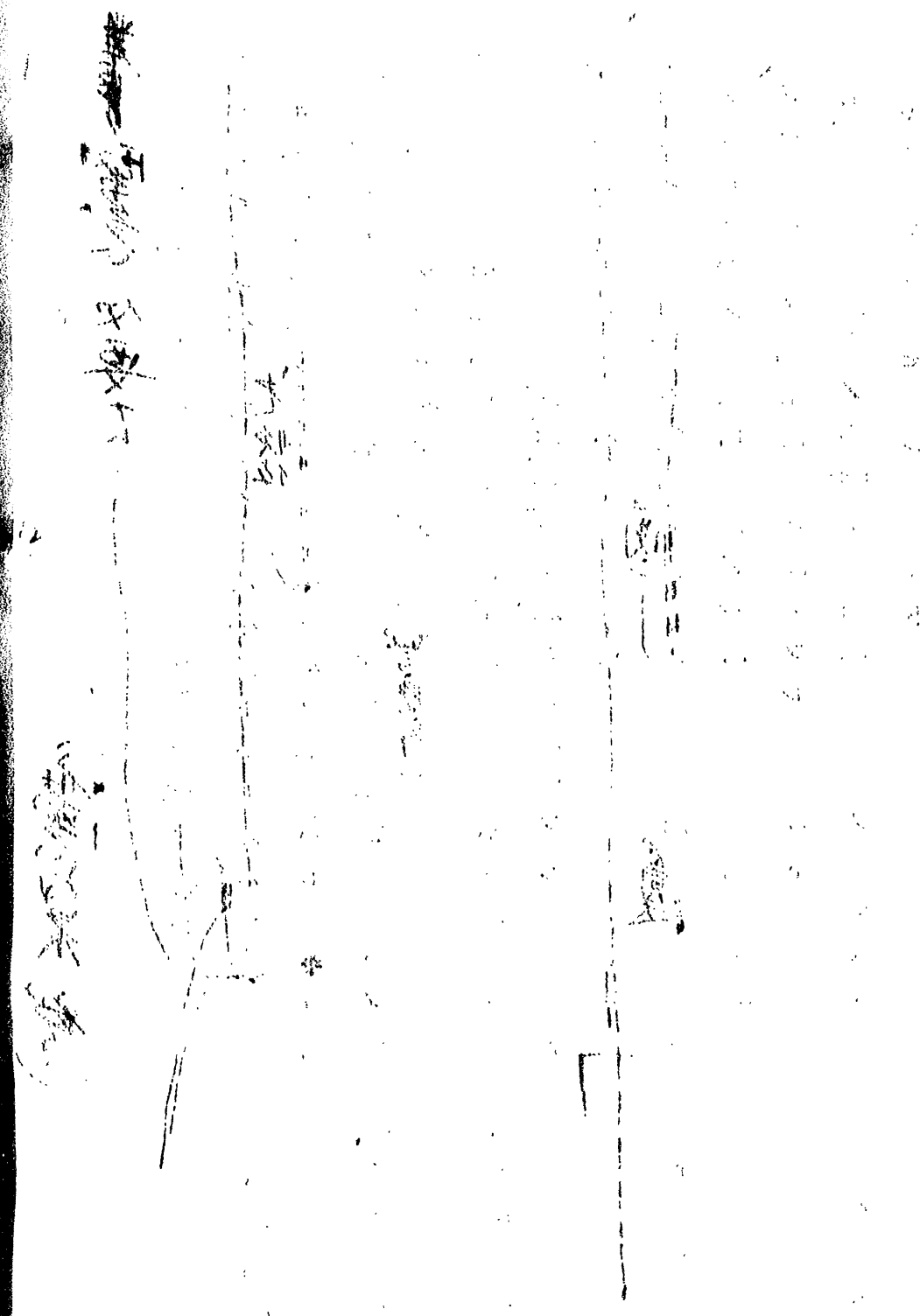
四 各廳府縣ニ若干ノ移動用無線電話装置ヲ設ケ夫々廳府縣トノ間交

信シ得ル如クセラレ度キコト

三、<sup>執</sup>同報無線電報等々通信ノ利用ヲノ際期スルニ内務省並ニ警察

省本部ト送受信局所ト間ニ特別ノ電話回線ヲ設ケラレ度キコト

昭和二十一年四月二十日  
内務省現有通信設備ノ統合整理ニ關スル件  
第一種區間ノ整理ニ關シテハ  
第二種區間ノ整理ニ關シテハ  
第三種區間ノ整理ニ關シテハ



内務省現有通信設備ノ統合整理ノ實施ニ關スル件 (案)

昭一九四二六 通信院

内務省現有通信設備(除屋内設備)ノ統合整理ノ急速且圓滑ナル實施ヲ期スル爲、關係府縣廳及遞信局ノ擔當官ニ於テ速ニ左記要領ニヨル具體的協議、調査ヲ遂ゲ、本件實施ノ緒ニ就クモノトス

記

〔統合整理スベキ區間ヲ次ノ四種ニ分類シ、第一種區間ヨリ遂次着手スルコト

1 第一種區間

通信院ノ現有豫備設備ヲ利用シテ、簡單ニ連絡、統合シ得ルモノ

2 第二種區間

通信院現有設備ニ或程度ノ工事(重信作成、移架、分岐裝置、連絡線等)ヲ施行シタル後、統合シ得ルモノ

3 第三種區間

此係  
地方  
五月十日迄  
其  
五月十日迄

通信院ノ實施中又ハ計畫中ノ設備完成後ニ於テ統合シ得ルモノ  
4 第四種區間

通信院設備ニ關係ナキ區間ニシテ通信院ニ於テ保守工事ノミヲ擔  
當スルモノ

内務省現有設備ニ就キ、前項ノ分類調査ヲ現地ニ於テ協同實施シ、  
結果ヲ別紙様式ニヨリ取纏メルコト

調査實施ニ當リテハ左ノ各號ヲ考慮スルコト

1 線路併行セザル區間ト雖、兩端末同一ナルカ又ハ接近セルモノハ  
統合スルコト

2 一區間全部ノ統合不可能ナル場合ト雖、部分的ニ統合ヲ圖ルコト

3 協議ハ可成地方行政協議會所在地ニ於テ行フコトトシ、必要ニ應

ジ中央ヨリ委員ヲ派遣スルコト

4 本調査ノ完了ハ五月末日ヲ目途トスルコト

5 本調査ニ必要ナル經費ハ兩省ニ於テ夫々支辨スルコト

備考  
1 統合區間ハ  
東京一足柄  
狩野裝置  
5 回線種別

回線名	回線數	統合一回線及	年路	月	設計	要領

第 別  
種 紙  
區 間

備考

- 1 統合區間ハ實際ニ統合シ得區間トシ、回線名ハ統合區間ノ一致セザル場合アリ例ハ統合區間、東京1足柄、統合回線名ハ東京名古屋等ノ如シ
- 2 特種裝置 一齊指令電話等線路設計上特種ノ考慮ヲ要スル裝置トス
- 3 回線種別 中繼通話、直通通話ノ區別トス

第別紙	種區間	統合回線及區間	回線名同線數	同線名同線數
內務省現有通信設備適合整理圖書			手延區間	延長區間
銅版 七ヶ		各種裝置 電話 特種裝置 有無 回線種別 要領	統合區間	
		撤去線條 設計 綜合設計 種別數量料 同線 同線 同線		同線 同線 同線
		上運給線施設		設計 設計 設計
		撤去線條 設計 綜合設計 種別數量料 同線 同線 同線		設計 設計 設計
		同線		設計 設計 設計
		同線		設計 設計 設計
		同線		設計 設計 設計
		同線		設計 設計 設計

別紙

第種區間

內務省現有通信設備適合整理圖書

銅版 七ヶ

撤去線條

設計

綜合設計

種別數量料

同線

同線

同線

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

設計

同線名同線數  
延長區間  
手延區間  
同線名同線數

	總檢 ( ) 電 址
	所 要

23-2

裏面白紙

所要材料	所要經費		記	事
	物品費	工費		
鑄鐵(砵) 圓柱(本)	木	竹		
		其他		



無線通信施設ヲ警察通信ニ利用ニ關スル應急對策（案）

一 九四二六

一、緊急必要ナル警察通信ハ非常用無線施設ニ依リ第一順位ニ之ヲ取

扱ハレ度キコト

其係同様にしう可なりと云ふ

之ガ爲内務省並ニ各廳府縣廳（警察部）ト非常用無線局トノ間ニ

特別ノ電話回線ヲ設ケラレ度キコト

了

二、廳府縣廳所在地ニシテ非常用無線局ヲ未ダ設置シ居ラザル所又未

ダ設置計畫ナキ所ハ早急ニ之ヲ整備セラレ度キコト

早急ニ整備ス

三、同報無線電報ノ警察通信ヘノ利用ノ圓滑ヲ期スル爲内務省並ニ

府縣（警察部）ト送受信局所トノ間ニ特別ノ電話回線ヲ設ケラレ

度キコト

了

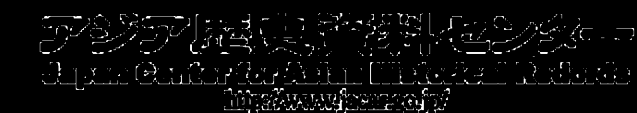
四各府縣ニ若干ノ移動用無線電話裝置ヲ設ケ夫々府縣トノ間  
信シ得ル如クセラレ度キコト

一 通信院計畫中ノ人  
二 特ニ必要已ラヌカ  
三 協議ニ

内務、通信連絡委員會規約

- 一、本委員會ハ内務、通信連絡委員會ト稱シ、内務省及通信院ニ於テ選定シタル關係官若干名ヲ以テ之ヲ構成ス
- 二、本委員會ハ昭和十九年四月六日閣議ニ於テ決定シタル決戦非常措置要綱ニ基ク電氣通信設備ノ動員整備ニ關スル件並ニ昭和十九年四月十一日石ニ關シ内務次官、通信院總裁間ニテ協定シタル申合事項ノ具體化ニ關シ、其ノ圓滿適切ナル運用ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 三、本委員會ハ必要ニ應ジ内務省又ハ通信院ニ於テ之ヲ開催ス
- 四、内務省ニ於テ開催スルトキハ内務省警保局警務課長ヲ通信院ニ於テ開催スルトキハ通信院工務局線路課長之ヲ主宰ス
- 五、本委員會ノ庶務ヲ整理シ且内務省、通信院委員間ノ連絡ヲ圖ル爲内務省、通信院委員中若干名ヲ幹事トス

五本委員會ハ昭和十九年四月二十六日ヨリ之ヲ設置ス



委員名簿

内務省側委員

警保局 警務課長 内務書記官 高橋庸彌

同 警務課 内務事務官 萩野隆司

同 同 内務理事官 種村一男

同 同 内務技師 松本脩二(幹事)

同 經濟保安課 内務事務官 後藤博

防空總本部

警防局

指導課 防空總本部 官地直邦(幹事)

警備課 同 久下勝次

通信院側委員

工務局 線路課長 通信院技師 吉田正

同 無線課長 同 網島毅

業務局	電務課長	通信院書記官	靱
總務局	主計課長	同	矢部
防衛通信局	庶務課長	同	嘉彌
施設局	同	同	榮
工務局	線路課	通信院技師	和氣
業務局	電務課	通信院事務官	幸太郎 (幹事)
			長田裕二 (幹事)

大日本帝國政府

無線通信施設ヲ警察通信ニ利用ニ關スル内務省意見 案

- 一 非常災害時有線通信ノ利用不能トナリタル場合警察通信ハ非常用無線施設ニ依リ特別優先的ニ之ヲ取扱ハレ度キコト
- 二 之ガ爲内務省並ニ各廳府縣廳ト非常用無線局トノ間ニ特別ノ電話回線ヲ設ケラレ度キコト
- 三 廳府縣廳所在地ニシテ非常用無線局ヲ未ダ設置シ居ラザル所又未ダ設置計畫ナキ所ハ早急ニ之ヲ整備セシメレ度キコト
- 三、特ニ必要アル場合ハ現在同盟通信社ガ使用シ居レル同報無線電信放送ヲ警察通信ニ使用シ得ル様内務省内ニ分局ヲ設クルト共ニ地方ニ於テハ之ガ受信装置アル同盟通信社支局ト所在ノ廳府縣廳トノ間ニ特別ノ電話回線ヲ設ケラレ度キコト
- 四 各廳府縣ニ若干ノ移動用無線電話装置ヲ設ケ夫々廳府縣トノ間交信シ得ル如クセラレ度キコト

手記  
無線  
通信

# 大日本帝國政府

## 內務省側委員

### 內務省、通信院連絡委員會

警保局	警務課長	內務書記官	高橋庸輔
同	警務課	內務事務官	荻野隆司
同	同	內務理事官	權村一男
同	同	內務技師	松本清二（幹事）
同	經濟保安課	內務事務官	後藤博
防空總本部	指導課	防空總本部事務官	宮地直邦（幹事）
同	警備課	同	久下勝次

警察官の職務は、治安維持、犯罪防止、交通維持、災害救助、市民の安全確保にあり、その職務は、法律に基づき、厳格に執行される。警察官は、常に公正、公平、誠実に職務を遂行し、市民の信頼を得ることを努める。また、警察官は、市民の安全と福祉を第一とし、必要に応じて、市民の生命と財産を保護するために、法律に基づき、強制力を行使する。警察官は、常に自己の徳行を磨き、市民の模範となることを目指す。